

第8回「福岡東在宅ケアネットワーク」「在宅医療部会」共催症例検討会に参加して

ちはやACTクリニック 渡邊真里子

平成26年12月4日

【事例について】

精神障害のため自身の健康への意識が乏しく拒否の強い末期がんと合併のある方の事例でした。大変困難な方を関係者一同が精一杯サポートされており、感銘と深い敬意を覚えました。できる工夫はすべてされておられたと思いますが、精神科医の立場でいくつかコメントを述べさせていただきました。

・入院の可能性について

精神障害と身体疾患の合併の方の入院施設は限られているのが現状です。この方の身体状況から単科精神科病院では身体面への濃密ケアは難しかったと考えました。もし入院をとっても、身体面、精神面共に治療拒否のこの方には何を目的で治療するかを、精神科からも身体科からもご本人と同意を得て考えていくのは難しく、結果的にはぎりぎりまで在宅ケアをとれたのは、在宅生活を望まれたご本人やご家族にとって何よりだったと思います。

・成年後見人制度導入の是非

この方の身体ケアの判断能力のむずかしさから、成年後見人制度の導入の意見も出ましたが、現制度ではそこまでの判断を後見人がとることは難しいかと思えます。

・在宅での精神科との連携

今回は在宅医療機関が中心となって、精神看護も行う訪問看護ステーション、ヘルパー事業所で支援しておられました。内服に抵抗がおありの方ではありましたが、精神科ではいくつか服薬への工夫を持っていることがありますので、介護をする側される側の安全を考えても精神科との連携は可能であつたらうと思えます。ただ現状の保険制度では2か所での在宅総合医療管理料の算定が難しいので、どのように連携していくかの課題は残ります。

【当日のグループワークについて】

参加者の皆様は熱心にご討議されておられました。グループ発表では、アイデアとして、地域の非医療のコミュニティを巻き込む、ご本人が何が楽しいのかを聞いて関係を創っていく、ご家族や福祉との連携の可能性などさらなる広がりのある意見が出て、いずれも工夫されるとよいものでした。皆様のご慧眼に感服しました。

【全体の感想】

科や職種を超えて、東区内はもちろん勉強熱心な他地域の方も参加され、元気を頂ける症例検討会でした。当日の事務局の皆様、下支えをしてくださっている行政の皆様、何より福岡東在宅ケアネットワークの会員の皆様の真摯な姿勢と繋がりを大切にしている日頃の関係性がこのような会を運営できていると思えます。私は精神科専門の在宅支援診療所を開設して日が浅いのですが、諸先輩と共に東区の在宅支援を支えられるよう頑張っていきたいと思えました。ありがとうございました。